

認定書

国住指第 2608 号
令和 2 年 1 月 7 日

シーシーアイ株式会社
代表取締役社長 岡部 鉄也 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060FL-1050-1
2. 認定をした構造方法等の名称
被覆材付硬質ポリ塩化ビニル管・被覆材付鋳鉄製継手管／セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

被覆材付硬質ポリ塩化ビニル管・被覆材付鋳鉄製継手管／セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開口部	形状	円形(φ209mm以下)
	面積	0.0343m ² 以下
占積率 (開口面積に対する被覆材付配管の断面積 の総合計の割合)		51.5%以下
貫通する床の構造等		ALCパネル又は鉄筋コンクリート造 厚さ100mm以上

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表2に、配管の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項目		仕様	
被覆材①		材料	無機質混入樹脂シート・ウレタンフォーム積層材
		使用箇所	1) 立て管 2) 鋳鉄製脚部継手管
		使用条件	1) 立て管被覆用：あり(被覆長さ300mm以上) 2) 鋳鉄製脚部継手管被覆用：あり又はなし
	表面材	材料	ポリエステル系樹脂(ポリエチレンテレフタレート等)
		厚さ	非公開
		使用条件	立て管の場合に使用
	樹脂シート	材料	非公開
		組成(質量%)	
		厚さ	
		密度	
	基材	材料	ウレタンフォーム材
		厚さ	非公開
密度		非公開	
被覆材②		材料	無機質混入樹脂シート・ガラス繊維積層材
		使用箇所	鋳鉄製継手管
		使用条件	鋳鉄製継手管被覆用：あり(継手管全体を被覆)又はなし
	表面材	材料	ポリエステル系樹脂(ポリエチレンテレフタレート等)
		厚さ	非公開
	樹脂シート	材料	非公開
		組成(質量%)	
		厚さ	
		密度	
	基材	材料	ガラス繊維
		厚さ	非公開
		密度	
延焼防止材	熱膨張材	材料	非公開
		質量	
		組成(質量%)	
	カバー	材料	非公開
		厚さ	
		使用箇所	
充てん材	材料	セメントモルタル	
	組成(質量%)	普通ポルトランドセメント	25
		砂	75
充てん量	隙間に密に充てん (床厚方向100mm以上)		

表3 配管の仕様

項目	仕様	
<p>鋳鉄製継手管</p>	<p>材料</p>	<p>本体：ねずみ鋳鉄品 (JIS G 5501) 表面処理：エポキシ樹脂系粉体焼き付け塗装 ゴムパッキン：EPDM 横枝本数：3本以下</p>
	<p>種類</p>	<p>挿し口タイプ</p>
	<p>外径</p>	<p>φ150mm以下</p>
<p>鋳鉄製脚部継手管</p>	<p>材料</p>	<p>本体：ねずみ鋳鉄品 (JIS G 5501) 表面処理：エポキシ樹脂系粉体焼き付け塗装 ゴムパッキン：EPDM フランジ：球状黒鉛鋳鉄品 (JIS G 5502) 留付材：ボルト・ナット (鋼製 (ステンレス鋼含む))</p>
	<p>種類</p>	<p>立て管側：挿し口タイプ 横主管側：フランジタイプ</p>
	<p>外径</p>	<p>φ164mm以下</p>
	<p>仕様</p>	<p>鋳鉄製脚部継手管の両側に掃除窓 (あり又はなし)</p>

つづく

配管	材料	立て管、横枝管及び横主管： 種類：①～⑤の一 ①硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741 (VP)) ②水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6742 (VP)、塩化ビニル管・継手協会規格 AS 20) ③耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6776 (HT)) ④耐火二層管 (国土交通大臣認定：PS060FL-0401、0383、0454において配管として規定される繊維混入セメントモルタル被覆合成樹脂管) ⑤排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (日本水道鋼管協会規格WSP 042) 管継手 (ブッシュ材を用いる場合)： 種類：①～④の一 ①排水用硬質ポリ塩化ビニル管継手 (JIS K 6739) ②水道用硬質ポリ塩化ビニル管継手 (JIS K 6743、塩化ビニル管・継手協会規格 AS 21) ③耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管継手 (JIS K 6777) ④耐火二層管管継手 (国土交通大臣認定：PS060FL-0401、0383、0454において配管として規定される繊維混入セメントモルタル被覆合成樹脂管管継手)
	外径	立て管： ①、②、③；呼び径100以下 (外径φ114mm以下) ④；呼び径100以下 (外管外径φ129mm以下、内管外径φ114mm以下) ⑤；呼び径100以下 (外径φ114.3mm以下) 横枝管： ①、②、③；呼び径75以下 (外径φ89mm以下) ④；呼び径75以下 (外管外径φ103mm以下、内管外径φ89mm以下) ⑤；呼び径75以下 (外径φ76.3mm以下) 横主管： ①、②、③；呼び径150以下 (外径φ165mm以下) ④；呼び径150以下 (外管外径φ183mm以下、内管外径φ165mm以下) ⑤；呼び径150以下 (外径φ165.2mm以下) 管継手： ①、②、③；呼び径65以下 (外径φ83mm以下) ④；呼び径65以下 (外管外径φ103mm以下、内管外径φ83mm以下)
	厚さ	立て管： ①、②、③；7.1mm以下 ④；外管厚さ6.5mm以下、内管厚さ7.1mm以下 ⑤；4.8mm以下 横枝管： ①、②、③；5.9mm以下 ④；外管厚さ6.5mm以下、内管厚さ6.0mm以下 ⑤；3.8mm以下 横主管： ①、②、③；9.6mm以下 ④；外管厚さ8.0mm以下、内管厚さ9.6mm以下 ⑤；5.7mm以下 管継手： ①、②、③；3.1mm以下 ④；外管厚さ10.1mm以下、内管厚さ3.1mm以下
ブッシュ材 (あり又はなし)	材料	種類：①及び② ①硬質ポリ塩化ビニル製 (本体部) ②鋼製 (プレート部)
	外径	φ60～φ90mm
	厚さ	①3～5mm (本体部) ②0.6 (±0.05) mm (プレート部)

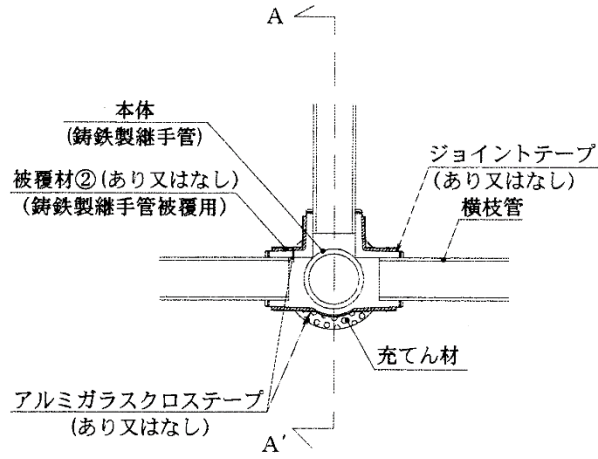
4. 副構成材料の仕様：
副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

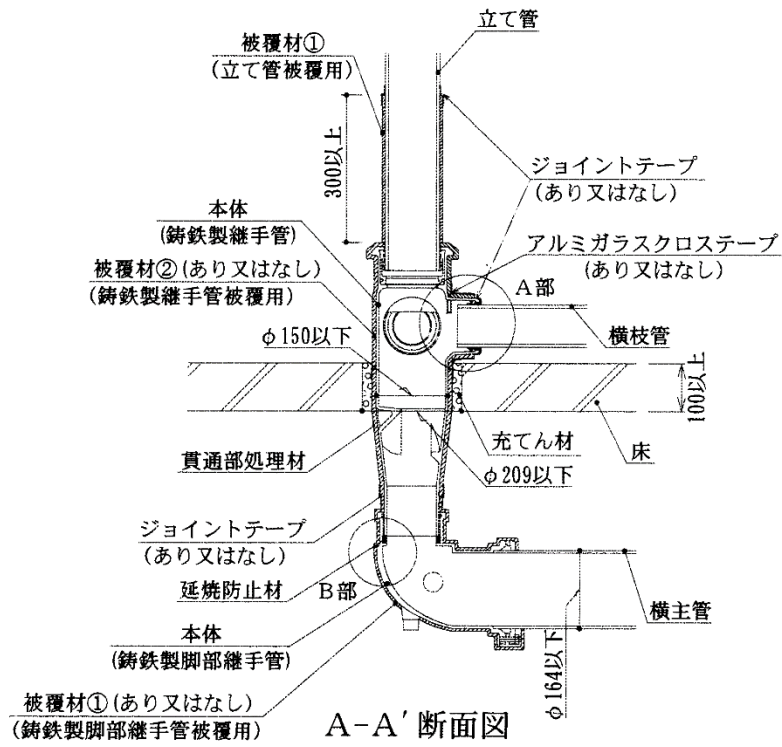
項目	仕様	
貫通部処理材	材料	不織布(ゴム系粘着剤付)
	組成(質量%)	非公開
	寸法	
	使用箇所	被覆材付鋳鉄製継手管表面(幅100mm以上充てん材埋戻し部内に埋設すること)
ジョイントテープ	材料	オレフィン樹脂フィルム(ゴム系粘着剤付)
	組成(質量%)	非公開
	寸法	
	使用箇所	1) 立て管に用いる被覆材①の端部に使用する 2) 鋳鉄製継手管用被覆材②の端部・接合部に使用する
アルミガラスクロステープ	材料	アルミニウム箔・ガラスクロステープ(アクリル系粘着剤付)
	厚さ	非公開
	使用箇所	鋳鉄製継手管用被覆材②に使用する

5. 構造説明図：
構造説明図を図1～図4に示す。

単位 mm

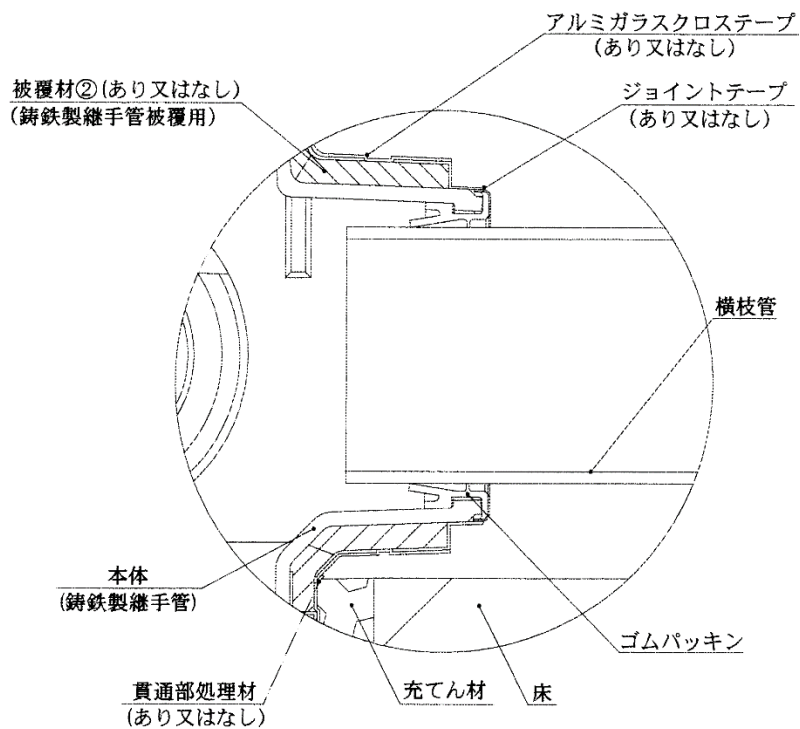


平面図

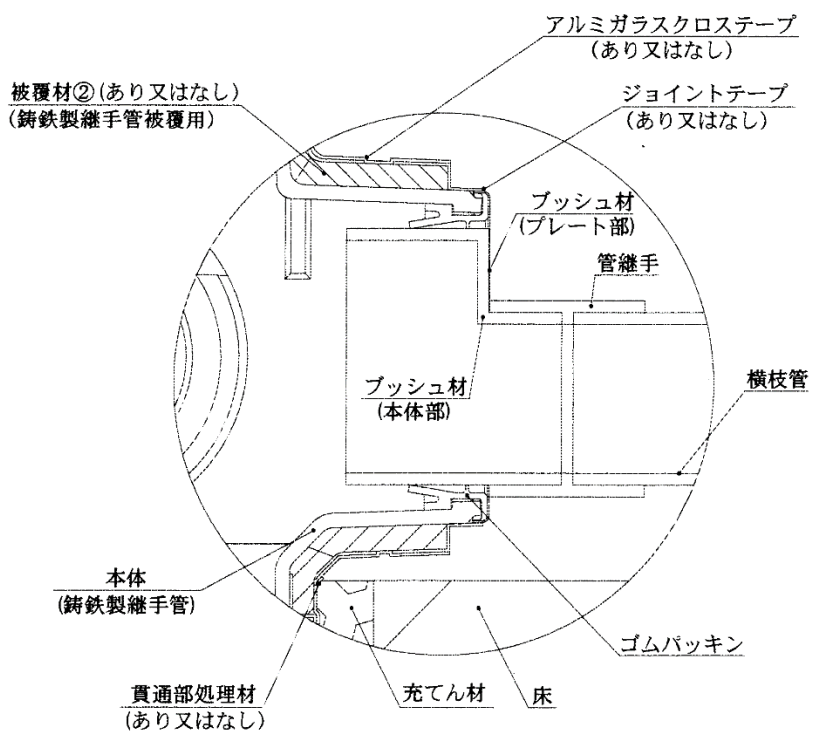


注) 施工図は代表例を示す

図1 構造説明図(施工図)



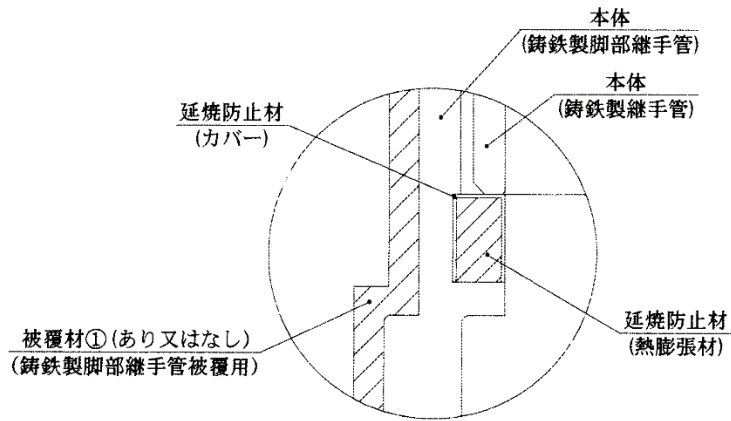
A部詳細図(ブッシュ材なし)



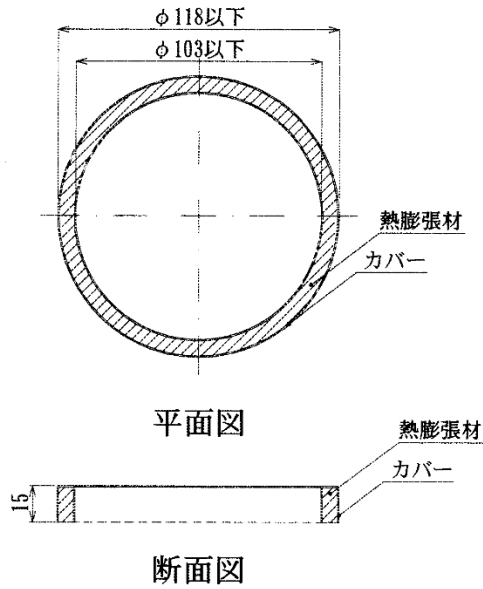
A部詳細図(ブッシュ材あり)

図2 構造説明図(施工図)

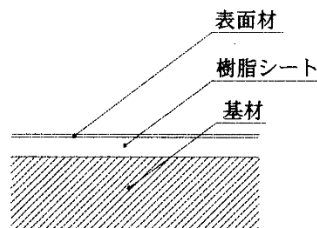
単位 mm



B部詳細図 (延焼防止材)



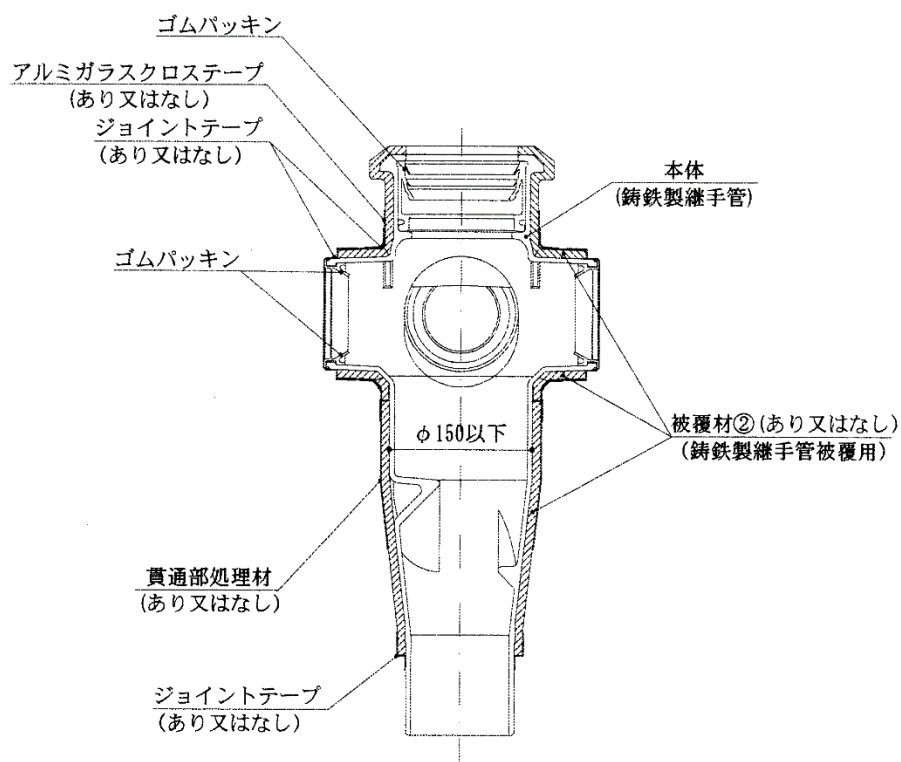
延焼防止材の詳細図



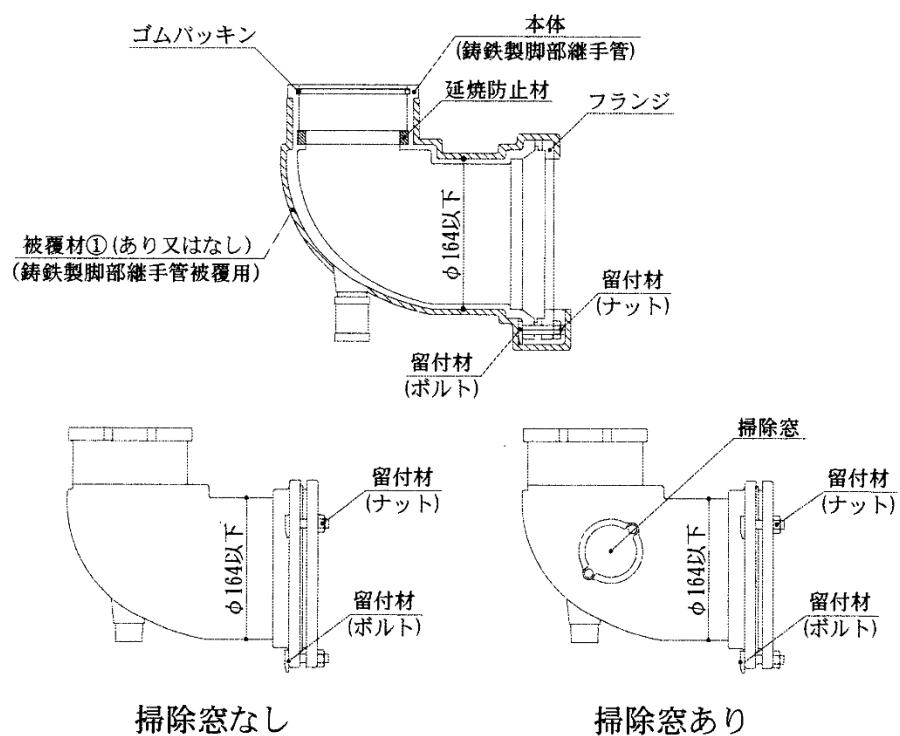
被覆材の詳細図 (被覆材①及び②)

図3 構造説明図 (施工図)

単位 mm



铸铁製継手管の詳細図 (代表例)



铸铁製脚部継手管の詳細図 (代表例)

図4 構造説明図 (施工図)

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

- (1) 鋳鉄製継手管(被覆材：あり又はなし)を貫通させる場所に、あらかじめ所定の開口部を設ける。またあらかじめアンカーボルトを差し込む穴を開けて、アンカーボルトを打ち込んでおく。
- (2) 鋳鉄製脚部継手管内部に延焼防止材を設置する。
- (3) 鋳鉄製脚部継手管に支持金具を取り付け、長ネジでアンカーボルトに固定する。
- (4) 横主管(被覆材：なし)を配管し吊バンドを取り付け、長ネジでアンカーボルトに固定する。
- (5) 鋳鉄製継手管を開口部から鋳鉄製脚部継手管に挿入する。
- (6) 充てん材(セメントモルタル)の落下を防止するために裏面から裏当て材等で仮押さえをし、充てん材を充てんする。充てん材が完全に硬化した後、裏当て材等を取り除き、充てん材が密に詰まっていることを確認する。
- (7) 貫通部の処理が終了した後に、鋳鉄製継手管上部の立て管(被覆材：あり)及び横枝管(被覆材：なし)を配管する。立て管の被覆材端部は、ジョイントテープで1周以上覆う。